

## 沖縄での麻疹流行と対策

院長

3月中旬から流行が始まった沖縄での麻疹は、5月1日現在4次感染者を含めて86名が報告され、全国へ広がりを見せています。CLINIC NEWSでは、「怖い病気 それは麻疹！」(2003年8月号)、「成人麻疹大流行?!」(2007年6月号)、「なんで今頃、麻疹なの？」(2014年3月号)、「麻疹排除」(2015年4月号)と麻疹の解説だけでなく、注意喚起を何度も行なってきました。同じ病気を何度も記事として取り上げなければならないことは、麻疹対策が不十分であることを示し、小児科医としてはとても残念で悔しいことです。

さて、麻疹流行をどう捉え、読者は何をすべきなのか、もう一度考えてみましょう。まずは麻疹についておさらいをしましょう。麻疹ウイルスが原因で、空気感染、飛沫感染、接触感染などのさまざまな経路があり、潜伏期は10日前後です。病期はカタル期(2~4日間)、発疹期(3~5日間)、回復期に分けられます。カタル期はカゼと同じように38℃前後の発熱、上気道炎症状(咳、鼻水、のどの痛み)と結膜炎症状(結膜充血、目やに)で始まります。発疹期は一旦熱が下がりがけ、再び熱の上昇とともに発疹がでてきます。顔から始まる発疹は次第に全身に広がり、色もくすんできます。熱も高熱(39~40度)になり、食欲や元気がなくなり、見るからに重症感が漂います。大雑把にいうと1/3が点滴、1/3が入院するような重症な病気です。さまざまな合併症がみられますが、約半数が肺炎で、時に脳炎(1/1000人)がみられます。合併症により重症化し、希に死に至ることがあります。

ここで、麻疹感染を考える上での要点を抜き出してみます。診断の根拠となる発疹が出るのは、発熱などの症状が出てから3~5日後です。空気感染をするので感染力が強く、インフルエンザの5倍以上の感染力があるとされています。もうひとつ厄介なのが、「修飾麻疹」の存在です。ワクチン接種が1回で接種後10年以上経過しているなど、免疫が不十分な人が感染した場合、軽症で典型的ではないものが「修飾麻疹」です。潜伏期間が長く、高熱が出ない、発熱期間が短い、発疹が手足だけなど軽い症状で経過します。つまり、麻疹という病気は診断が困難というか、不

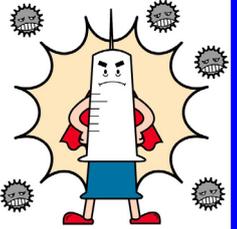
可能と考えるべきでしょう。

では、読者の皆さんは、何をすればいいのでしょうか。ここまで説明してきたように診断が難しい理由から感染を防ぐことは不可能で、麻疹の直接的治療法也没有ありません。口すっぱくして言いますが、唯一の予防策はワクチンです。ワクチンに関しては子どもと大人にわけて考えてみます。子どもでは第1期(1歳台)及び第2期(小学校入学前1年間)の対象者は速かに接種を受けましょう。万が一接種の機会を逃して未接種の場合は、年齢に関係なく緊急に接種を受けてください。大人で重要なことは麻疹の罹患歴、自身の母子手帳でワクチン接種歴を確認することです。ちなみに1972年~1990年生まれ(28歳~46歳)は1回接種か未接種者が多いため、もっとも感染の危険性が高い年齢です。海外から入った麻疹が、この大人の感染者が流行の輪を広げてしまうのです。

ワクチン接種に対する疑問が寄せられているので、少し触れておきましょう。「抗体価を測定してから接種するのでしょうか」と聞かれます。まず麻疹に罹患していたとしても、ワクチン接種をしていても、新たにワクチンを接種することの問題はありません。抗体価検査は健康保険が利用出来ないため、金銭的負担を考えれば抗体価を測定しないで接種しても構いません。「麻疹ワクチンとMR(麻疹風疹混合)ワクチンのどちらを打てば良いのでしょうか」。麻疹単独ワクチンは現在品不足の状態にあります。風疹には先天性風疹症候群という大きな問題もあります。先天性風疹症候群も免疫の無い大人たちが感染源となるので、その予防も考えてMRワクチンを接種するのがいいでしょう。「乳児にワクチンを接種したほうがいいのでしょうか」と聞かれます。ワクチンは生後6カ月を過ぎれば接種可能です。沖縄では流行の拡大から乳児へのワクチン接種も行われています。しかしながら周囲での流行が無ければ慌てて接種する必要はないと考えています。

まず重要なことは、麻疹という病気を理解することです。CLINIC HPに全てのNEWSがあります。是非読んで、麻疹に対しての理解を深めて下さい。このようにマスコミで騒がれると明日にでも感染してしまうと思う人がいるでしょう。麻疹を侮ってはいけません。必要以上に怖がりパニックになってしまうといらぬ混乱が生じます。あわてて我先にとワクチンに飛びついてしまうと、重症化する可能性が高い幼児にワクチンが行き渡らなくなります。

繰り返しになりますが、予防にはワクチンしかありません。周囲の流行状況をしっかり把握し、ワクチンの優先順位を考え、家族や社会を守るという意識を持ちMRワクチンを接種しましょう。



### 5月のお知らせ

- 在宅休日当番のご案内  
6日(日) 9:00~16:00。連休を潰しての当番です。上手にご利用ください。
- 栄養育児相談  
2、23日(水) 13:30~  
栄養士担当 参加無料



## 読者の広場

先月は7通のメールをいただきました。それからスマホのMssengerというアプリでは、4通のメッセージを貰いました。Facebookを利用している方は直接送れますので、よければ利用してみてください。



まずは、泉区の橋野さんからの愚痴メールです。まずは1通目「かわむら先生おはようございます。お忙しいところ恐縮です。なんと私が入院中です。不存なまま過ごす中、かわむら先生の顔が浮かびました。(金)に腹痛で近所の〇〇内科を受診。血液検査で白血球 WBC13100 という数値で〇〇〇病院の急患センターに緊急入院。(土)(日)をとりあえず過ごし、先ほど回診で、担当の先生から腸炎で一週間程で退院との説明がありました。病状についての説明は、おそろくばい菌感染したんじゃないだけです。CTやレントゲンを撮ったものの説明は?と聞くと、必要であれば質問事項をメモに書いて出してもらえれば…との矢継ぎ早の会話で…。どつと不存になってしまいました。同じ病室の方2人が腸炎といわれ、半年後に大腸ガンが見つかった時には広がっててという経験者で私モモヤモヤが拭えません。〇〇〇病院消化器内科、看護師が先生の名前も知らない…。大病院のあるあるなのでしょうか?かわむら先生が良かった」

助けを求められた正義の味方の院長は、次のように返信しました。「メールありがとう。大変ですね。病状に関しては、コメントするのは難しいところです。おそらくは感染性胃腸炎だと思います。白血球 13100 は必ずしも細菌感染を表す程の値ではありません。おそらく症状も落ち着きつつあるので、レントゲンやCTには異常は無いと思いますよ。腸炎で半年後に癌が見つかったのは、たまたま偶然でしかありません。それが普通なら世の中、子どもたちを含めてガンだらけになってしまいます。待てば治りますから、せっかかもらった骨休みとを考えてください。心配しないで、ゆっくりしましょう。次は初診はかわむら先生ですよ(笑) それでは、お大事に!!」

2通目の返信です。「かわむら先生お忙しいなか、ご返信ありがとうございます。次の時は、かわむら先生に本当に行きそうです。担当医からは『腸炎』で何かの細菌に感染したんじゃないですが…との事でしたが…。入院計画書には、『結腸憩室炎』と記載されておりました。今朝の回診で、「次の患者は腸炎」といわれたので「私は腸炎ではありません」と言ったら「じゃあ何なんですか」「結腸憩室炎です」「そんなの同じです」。若い先生とバトルしてしまいました。今日の昼から普通食にして何もなければ明日か明後日退院との事。そして、うちはアフターフォローはしませんとの事。撮ったMRI画像の説明とか何故これが起こったのか偶々なのか、繰り返すのか??? 退院しても疑問だらけです。『不存の花束持帰り』同じ医療現場で、こんなに違うものですね。かわむら先生につねづね返信まで頂いて、あースッキリした(≧≦≧)」

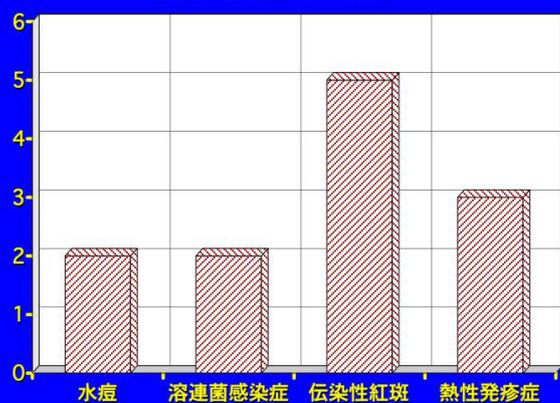
まずは特別な病気ではなくて何よりということです。そして病気の愚痴を聞いてくれる医師がいることがよかったのです。返事をもって「あースッキリした」が一番で、それが当院が求めている「お母さんの不安・心配の解消」ですよ。愚痴メールを読んで、逆にこちらスッキリしました。医師も一人の人間です。どの職業も同じですが、人は十人十色です。病院の名誉のために一言、若い医師の代わりに部長がきて、謝罪と十分な説明してくれ本人も満足して退院できたようです。これをお読みの皆さん、かかりつけであれば何でも相談OKです。かかりつけでない皆さん、相談できる医師、病院を探しましょう。

続いて青葉区の佐藤さんからのメールです。しばらく前に膝を傷めて整形外科に通院中に相談に来た母親です。整形外科ではレントゲンにも異常がないためしばらく様子を見ましようと言われていました。膝の腫れが治らず、圧痛が続くために1ヶ月後に相談にきました。腫れが続き、膝が充分伸びない点が気になり、専門の病院を紹介しました。

「いつもお世話になっております。先日息子の膝の腫れの件で日赤病院を紹介して頂きました。佐藤〇〇の母です。昨日血液検査の結果が出たのとMRI検査を受けて、半月板の形が正常でない、円板状半月板という状態からくる膝の腫れだということわかり、今日末に手術を受けることになりました。手術と聞いてショックは受けたものの、血液検査に異常はなかったこと、先生に物理的な手術との説明を受けて命に関わる病気ではないこと、そして何より原因がはっきりしたこと正直ホッとした、というのが本音です。あの時原因がわからず悶々としていた私の気持ちを汲んで下さり、大きい病院を紹介して頂いてしっかり検査してもらえたことに、とても感謝しています。ご紹介頂いた大沼先生も患者側の疑問や質問もじっくり聞いてくれて、子供の気持ちにも寄り添ってくれるとても良い先生で、その先生に手術も執刀して頂けると聞いて、私達も安心しています。手術や術後の状態など、まだまだこれからではありますが、取り急ぎご報告と、感謝の気持ちを伝えたく、連絡させて頂きました。本当にどうもありがとうございました。」

小児科を膝の病気を受診というと、疑問があるかも知れませんが、でも小児科は子どもの病気の窓口です。どんな症状であっても、遠慮なく相談してください。当院で対応出来ない場合は、しっかりと道すじを作ることも小児科医の役割と考えています。

### 4月の感染症の集計



今シーズンのインフルエンザ患者数は2230万人を超え、2009年新型インフルエンザを越え過去最高でした。先月は特に流行している感染症はありませんでした。周囲や近隣の保育園ではヒトメタニューモウイルス感染症が流行しました。特別な病気ではなく、気管支炎を起こすウイルスの一種です。夏カゼの一種である伝染性紅斑が見られ、やはり季節感が薄れてきたように感じられます。

### Mail News, Facebook の紹介

Mail News は600人を越えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下のQRコードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信としてFacebookページ、YouTubeにも取り組んでいます。最新情報はFBをどうぞ。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomo-clinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



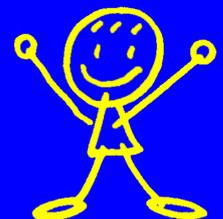
MailNews



Facebook

### 編集後記

またまた麻しんの話を書かなければならなくなりました。紙面にで紹介したように、20年以上にわたって記事を書かなければならないことは、いかに麻しんへの意識が低く、対策が遅れているかを示すものです。小児科医になって以来、ワクチンの重要性を伝えてきただけでなく、様々な取り組みを行ってきた身としては悔しい限りです。でもこうやって情報を発信していくことが、小児科医の役割だと考えています。



**K's clinic**

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。!!